

2008（平成20）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 あいまいさを排除し、事実を画定して歴史記述を図る歴史学自体が、広大であいまいな領域からの情報で成り立つということ。
- 二 歴史は、国や社会の代表的価値観で中心化され、成員の自己像を構成するよう操作された、個人と集団の記憶であるということ。
- 三 記憶は、その局限化・等質化である歴史よりも量的に巨大であり、物質、遺伝子という記憶形態の延長上に人間の記憶があるから。
- 四 歴史の語義自体が、現存する成果すべての記憶の集積として、人間の生を不可避的に決定することを本質とするということ。
- 五 あいまいで巨大な領域である歴史は、個人と集団の記憶とその操作であり、特定の価値観で局限されて個人の生を決定する。しかし、個人は無数の他者とともに生きつつ、自由な選択や行動を試み、強制力・決定力に抵抗し、その集積や混沌が歴史となるということ。（一二〇字）
- 六 a 散逸 b 超越 c 機会 d 信仰 e 矛盾